

『輝く雪』のまち

ぬまた町

みんなの議会

2018年4月
第73号



いっぽいあそぼうね(^^)

主な内容

第1回定例会 …… 2

議案37件とその他の案件3件を審議しました。予算等審査特別委員会を設置し、予算と条例の審査をしました。

高田議員の一般質問 … 4



子育て交流広場の運営形態が未確定である。しっかりとしたプランを示すように町に要求をしました。

所管事務調査報告 … 7

遊休農地対策や労働力対策の取り組みを主に、先進地視察調査を行い沼田農業の将来展望を示しました。

平成30年 第1回定例会 3月8日～15日

上程された主な議案

債権の放棄

平成22年に事業を休止した会社からの回収が見込めないと判断しました。債権者に求めていた補助金の返還、建物貸付料、農産加工場売掛金、水道料の請求を放棄する議決をしました。

団体営土地改良事業の計画変更

恵比島・幌新地区維持管理事業で恵比島揚水機・幌新ダムの維持管理に係る用水量、かんがい面積、耕作者数の変更を議決しました。

◎平成29年度一般会計補正予算

7882万円を追加し歳入歳出予算の総額を51億8524万円としました。

主な歳入

土地売却収入
北海道建設管理部沼田除雪ステーション 3923㎡
1962万円
農産加工場売上収入 72万円
社会福祉基金指定寄附金 30万円

主な歳出

町道除雪業務委託料 700万円
自動車学校業務委託料 300万円
温泉管理経費 120万円
デイサービス備品購入費 147万円
有害鳥獣駆除対策費 56万円
水利施設整備負担金 39万円
実習農場業務負担金 49万円
公営住宅除雪委託料 38万円
小学校維持費 69万円
中学校維持費 131万円
スクールバス修繕料 38万円

主な条例

・「沼田町指定居宅介護支援等の事業の人員及び運営に関する基準を定める条例」が制定されました。
事業所の指定権限が道から町へ移管されることから定められました。

表紙の写真



認定こども園の入園式の集合写真の撮影のときのひとこま



今回の定例議会の傍聴者は、6名でした。

みなさまの傍聴をお待ちしています。

- ・「沼田町乗合タクシー運行条例」が制定されました。
- ・「特別職の職員の給与に関する条例」の一部改正されました。

- ・農産加工品の異物混入の件で町長、副町長の給料の減額をするため決めました。
- ・「議会の議決すべき事件に関する条例」の一部が改正されました。

定住自立圏形成協定に議会の議決が必要なため決めました。

- ・「沼田町営スキー場設置条例」の一部が改正されました。

リフト料金（中学生）を子供料金にしました。
 ナイター料金（新設）
 大人 1500円
 子供 750円



利用してね。

- ・沼田町指定介護予防支援通所サービスセンター、後期高齢者医療、国民健康保険に関する条例は、法律の改正、整備に伴い一部改正されました。

- ・条例の制定により「沼田町介護予防及び生活支援事業条例」「市街地巡回バス実証運行条例」が廃止されました。

- ・産建福祉常任委員会から閉会中の所管事務調査の申し出があり許可しました。
- ・平成30年度の議員派遣を許可しました。

平成30年
 第2回臨時議会
 3月28日

◎平成29年度一般会計補正予算

総額950万円の補正をしました。

主な歳出

自動車学校業務委託料

150万円

町道除雪業務委託料

800万円

町の回答がありました

議会広報72号に掲載した「くらしの安心センター」天井部の木梁に入った「びび」の回答が2月26日に町からありました。町民の皆様にご心配をおかけしましたが、議会としては、今後も注視していきたいと思えます。

回答
 町長の説明責任について

町民の皆様には不安を与えましてお詫び申し上げます。

ふれあい懇談会で経過説明をします。

住民ワークショップにおいて作り上げたコンセプトに基づき木材を生かしたためもりのある建物にしました。

集成材を使用しています。天然木のため乾燥にばらつきがありました。構造上の問題は無いと確認しています。

経過観察が必要なので設計者、施工業者には指示しています。

工事請負契約内容について
 公共工事標準請負契約を準用しています。

経過観察を含め補修等の対応は施工者で執行します。



安心センター

町長への一般質問

問 移住定住支援サポートは十分か
答 仕事とセットの移住施策を目指す



杉本 邦雄
議員

に、沼田町はどのようなスタンスで望むのか。従来から行っている、町独自の施策との棲み分けをどのように図っていくのか。

問

本町の移住定住者に対する応援体制は、きめ細やかな施策に支えられ高い評価を得ています。平成29年の社会人口増減は、転入超過となりました。

しかし近年、近隣の市町も特徴を生かした施策を打ち出してきており、差別化が出来ていないように感じます。

町のお知らせ版で、町内の求人情報を見ることが出来ます。町内企業の求人活動は活発であり、これらとリンクした移住定住支援が必要ではないか。



移住定住窓口



町の移住定住施策は充実している

と考えています。安心センターや商業施設の開設にも支えられて、平成29年は転入超過となりました。

基本的には沼田農業を中心とした情報発信に力を入れていきます。3月にも女性の支援員が転入しており、徐々に効果が現れてきてい

ます。
新年度では、移住定住サポート協議会を設立します。町内企業を巻き込んだなかで、仕事を含めての移住定住支援を図ります。

北空知での定住自立圏構想に関しては、共同で行うことと独自で行うこと、それぞれのメリットとデメリットをしっかりと判断して取り組んで参ります。

問 子育て交流広場の運営方法は
答 気軽に立ち寄れる運営形態を目指す



高田 勲
議員

るのか。

こども園が完全無償化になり、共働き世帯の児童はこども園に行きやすくなります。子育て交流広場を整備しても、平日の施設利用の需要があるのか。

こども園に併設している、地域子育て支援センターとの棲み分けはどのように図っていくのか。



平成29年の出生率が1.7人になり上昇しました。「子育てを

するなら沼田町」と言われることを目標に、取り組んで行く事業です。

施設の運営は解放日が多くなって、いつでも気軽に出来るような形態を目指した



昨年の子育てサロン

いと考えています。細部の積算がこれからですので、人員配置やランニングコストに関しては、今は申し上げられません。

昨年、交流サロン事業を行いました。子供を安心して遊ばせることが出来る施設や広場が欲しいとの声が寄せられています。交流広場は、児童だけではなく妊娠初期のお母さん達も集まることが出来る、母親同志の交流の場を目指しています。

現在の地域子育て支援センターは手狭であり、1日3組の親子の受入が限界です。交流広場は支援センターのサテライト的な場所として、両方を活かした事業展開をしていきます。

問 くらしの安心センターの今後は

答 利用者の声を聴き体制を整えていく



津川 均
議員

うに対応するのか。
町長自らも現場を見て、
利用者の声を聴くべきと思
うがどうか。



コンパクトエコ
タウン構想の計画

は全体構想の中ではまだ途
中の段階です。
安心センターの中の施設

問 町長の目指してきた
コンパクトエコタウン
構想の中心的拠点となる施
設が『くらしの安心センタ
ー』だと思います。
多くの町民が集い、町民
同士のふれあいがあり、癒
しがあり、安心感の持てる
場所にしなければなりません。
4か月程経過し、ある程
度の利用者を確保している
ようです。今後より一層の
利用増進を図るためにどの
ように運営していくか。

これまでの施設とは違つ
利用者の誘導策が必要と考
えるが町長の考えを聞きた
い。
利用している町民から道
路や駐車場などについて、
要望があるようだがどのよ



あつまーる

の指摘もありましたので出
来るとは対応しました。
将来に向けて多くの町民
が利用する施設ですので、

私も含め、職員全体できめ
細かく利用者の声を聴く体
制を取っていききたいとおも
います。

問 生活保護基準引き下げに反対

答 注視し対応していきたい



橋 場 守
議員

げることが国の仕事ではな
いか。

「生活保護受給は恥」と
言った意識が働き、受給資
格がありながら申請しない
人が全体の80%だと推定さ
れます。

自治体は「憲法で保障さ
れたもの」と周知すべきも
のです。

生活保護基準の引き下げ
は地方税非課税基準保育料
や医療費・介護保険就学援
助などにも及びます。「生
活保護基準」の引き下げに
反対されたい。

橋場議員のそのほかの質問

問 国民の財産である鉄道を国の責任で

答 論議をし今後の対応を考えたい

問 マイナンバー法の廃止を国に要求せよ

答 法令順守の立場で仕事を進めたい



生活保護の取り
扱いは北海道が行
なっています。詳細の通達
が来ていません。

具体的な基準額が示され
ていません。沼田町は3級
地の2ですので今後注視し
対応していきたい。

生活保護



問 第6次沼田町総合計画の策定の課題は

答 町民の意見を聴き策定して行きたい



久保元宏 議員

町民、議会、町の果たす役割や責任を明らかにしてお互い協力して、創造的豊かで活力に満ちた住民自治を図るためにやって行きたいと思えます。

基本はこれに則って策定していきたくと考えています。

問 今年度に第6次沼田町総合計画の策定するにあたり、第5次総合計画をどのように、評価、見直し検討を必要と考えているのか。

第6次に向けては政策の最上位に何をするのか、人口目標の町長の思いを聞きたい。



第5次計画が終わって

いません。作業は30年度の4月以降に取り掛かりますから、今の時点で総括を述べるのは早いと思っています。

総合計画の策定に当たっては、広く町民の意見を聴き、すすめることが重要です。



調査テーマ

民俗資料の活用

沼田町の開拓は明治27年、沼田喜三郎によってはじまりました。

この124年の開拓の歴史を次世代に伝えて行く事が大切です。

今は「ふるさと資料館」は閉館になっています。

今後、この沼田町の歴史をどの様に伝え、残して行くかを調査します。

今回は近隣の深川市、妹背牛町、秩父別町、北竜町の状況を調査して来ました。

総務民教常任委員会 調査報告

深川市・妹背牛町・秩父別町・北竜町 2月16日



秩父別町郷土館

来館者数 576人
利用者 高齢者・出身者
目的 郷土学習・研修
運営経費 20万円



深川市郷土資料館

来館者数 4,918人
利用者 小中学生
目的 社会科の学習
運営経費 2,293万円



妹背牛町郷土館

来館者数 311人
利用者 小学生・一般町民
目的 女性研修等
運営経費 90万円



北竜町郷土資料館

来館者数 339人
利用者 高齢者・鉄道ファン
目的 出身者の郷土の思い
運営経費 71万円

委員長 長原 誠
副委員長 小峯 聡
委員 高田 勲
橋場 均
守

沼田農業の展望

報告書

現在の沼田の農業は平成23年以降、低温、台風など大きな災害を受けることなく、平成29年度も作況指数103と7年連続豊作基調が続く、さらに数年来後継者のUターンもあり、経営継承も進んでいる。

しかし、農業者の年齢構成をみると平成28年度調べで50代、60代の後継者のいない経営体は、全面積3700haの三分の一にあたる1000haを超える現状にある。すべてを残る農家で耕作するとすれば、一戸当たりの平均耕作面積が30haを超える面積となり、40haから50haの農家を中心となり今以上に水稲の播種、田植えの時期の労働力不足が懸念される。またほかにも規模拡大に伴う問題が考えられ、条件が不利な農地が耕作放棄されることも考えられる。

今後、沼田の農地を守り基幹である農業を維持していくために、当委員会では平成28年度より調査の中で、

各農業団体との意見交換会を実施した。その中で、基盤整備事業では（面整備）整備された農地は約1000haと未整備の割合が高い状況にあり担い手への農地集積、大型機械での効率化を進めるうえで、圃場整備のさらなる推進が必要と考えられる。また、各農業団体が共通した問題として、今後担い手、法人を主体として農地が集約され規模拡大が進む中で、規模に対応した労働力の確保が必要であり、今後に不安を感じている意見が多かった。

平成28年度の道外視察調査では経営継承が着実に進んでいる秋田県大潟村、遊休農地対策に取り組む岩手県葛巻町、行政、農業団体が連携した農業公社を中心に事業に取り組む宮城県角田市で調査を実施した。

平成29年度道内先進地視察調査では労働力対策に取り組む町を主体として調査を行った。美瑛町、富良野市では農業ヘルパーの取り組み、音更町ではJA木野無料職業相談所の取り組み、

芽室町では農業と福祉の連携、6次化の取り組みについて調査を実施した。又本年実施した青年層との意見交換会の中で、既に40haを超える農地で営農している担い手や、今後規模拡大を望む担い手など前向きな意見が多く、農地の集積は着実に進むと思われる。しかしながら、経営規模の大きい農業者ほど労働力確保に苦慮し、現在は短期の派遣労働、知人などで繁忙期の労働を確保している。今後に向けては、農業の労働力確保はますます大きな問題になると考える。以上の調査を踏まえ次の意見を付す。

1、圃場整備（面整備）の推進

現状の整備状況は全体の30%程度であり、中山間地域の整備があまり進んでいない。農地中間管理機構を通じ、担い手に円滑な農地集積のために更なる農地の整備推進が必要である。

2、大規模経営に合わせた農地の集積

農地の集積をさらに図り、用水管理の自動化、防除など省力化を進め低コスト生産日本一を目指すべきである。

3、労働力確保対策

労働力を確保するため、JA等による広域の相互連携を進め、そのための専用窓口の設立や施策を講じるべきである。

労働者の一定期間の雇用には労働者の宿泊施設の確保が必要であり、既存の施設や空き家などの活用を望む。またシーズンを通して労働を確保するための農業の法人化やハウス園芸などの特作の振興を進めることが重要である。

審査委員会

3月9日～14日

一般会計 46億9000万円
 特別会計 18億7200万円
 総額 65億6200万円

3月8日第1回定例会が開会し、平成30年度予算案などが提出されました。

予算案・条例案が予算等審査特別委員会に付託され4日間にわたり審議されました。

総務財政課より30年度地方財政対策のポイントの説明を受け、その後各課より予算の説明を受け質疑を行いました。

最終日に総括質問を行い審議の結果、条例案8件、予算案9件を認定しました。子育て交流広場整備事業については、附帯決議を行いました。

総括質問

予算の基本的考え方



ふるさとづくり応援基金充当

事業は細かく分かれていて町民に分かりにくい。基金に積んで長期的に財源を確保するべきではないか。



ふるさと納税は一定額を安定的に見込めるとは限らない。事

業の内容にもよるので事業別に工夫し検討したい。

庁舎のトイレの改修



スペースの問題もあると思う

が庁舎のトイレを温水洗浄便座に改修できないか。

町内外の来客があるので検討したい。

臨時職員の労働力の確保



和風園や旭寿園、実習農場などで臨時職員の募集を常態化



ています。応募して働いてくれる人がなかなかいないのは雇用条件に問題があるのではないか。

実習農場では賃金を6・4%上げて対応しているが軽作業の分類になり実習に来る少年の数によっては作業量が変わります。介護職も近年賃金を増やしています。基準を定めて全体のバランスも考慮して精査したい。

町民交流フェスタのあり方



女性活動の内容が変化し女性

主体のイベントを見直す時期と思います。類似事業との統合なども必要ではないか。ニーズを調査して充実した事業にしてほしい。

教育長 町民芸術祭は発表の場で、町民交流フェスタは体験、交流の場として考えている。

スキー場の食堂業務委託



スキー場の食堂部門は重要で



スキー場には欠かせないものと

考えます。当初はボランティアの意味合いが強かったと思います。今後はロッジの存続のために経費を見上げることも必要ではないか。

教育長 29年度は若干の赤字となっております。委託料は27年から18万円となっております。赤字の場合は積立金を取り崩している。賃金の単価は働いている人で決めている。労賃も含め現場と相談し補正も含めて対応したい。



女性フェスタ



スキー場ロッジ食堂



平成30年度 予算等 特別

委員長 高田 勲
副委員長 小峯 聡

◆ 予算審査の結果 ◆

平成30年度は、数年続いた大型ハード事業に区切りをつけて、施設の効果的な運用方法を模索する重要な年となります。

昨年度の予算審査において人口ビジョンに対する取り組みを指摘いたしました。理事者を先頭に職員が総力を挙げた取り組みが見られました。結果として平成29年における人口移動が、12人の転入増加となったことは特筆すべきことであり評価するところです。

この流れを加速するため、根幹である移住定住事業はもとより、健康増進事業や子育て支援事業、さらには医療介護や福祉を支える諸事業の堅実な執行を望むところです。

予算案の中に、準備不足と思われる事業が見受けられました。現場の声をしっかり聞き、利用者の意に沿った執行を望みます。

個々の事業については予算の大小に関わることなく、町の発展と町民の幸福度向上のために、従来にも増して町民目線での展開を希望します。

以上、本委員会に付託された条例8件と予算案9件につき、各課、各部署より説明を受け慎重に審査した結果いずれも原案どおり可決するものとして決定した。

附帯決議

子育て交流広場整備事業については、整備後の運用など、内容の精査ができておらず、事業効果やランニングコストを明確にしたうえでの執行を行う事。

〈健康で安心して暮らせるまちづくり〉

子育て交流広場整備事業、
乗り合いタクシーの運行ほか56事業
9億4545万円

〈活気あふれるまちづくり〉

しごと・未来応援プロジェクト事業他
56事業
8億2543万円

〈教育環境に優れたまちづくり〉

沼田学園推進事業ほか32事業
9192万円

〈その他の事業〉

ごみ処理に要する経費ほか5事業
2億8941万円

学 童 保 育



高田議員

土曜日の開園回数が増やせないか。需要があれば土曜日の開園回数を増やせないか。



学童保育は開所時間中は2名体制で対応している。年間254日開設し、月1回土曜日に開設しています。29年2月に調査したところ月

1回で対応できると判断した。今後も調査し対応したい。

1回で対応できると判断した。今後も調査し対応したい。

子育て交流広場整備事業



子育て交流広場整備事業に関する議論の過程を聞きたい。またどのように運営するのか具体的に



子育て交流広場整備事業に関する議論の過程を聞きたい。またどのように運営するのか具体的に



子育て交流広場整備事業に関する議論の過程を聞きたい。またどのように運営するのか具体的に



親子交流

9割近くの児童が入園している中、需要があるのか疑問に思う。子育てセンターの充実、こども園の拡充などで対応は考えられないのか。

昨年6月頃に交流イベントを4回行ったところ参加者から安心して遊べる広場がないという意見がありました。子供にやさしい町をPRし、出生率増加や町外から転入して出産する人たちの子育てサークルの活動拠点として。平日の午前午後後に利用でき、土日については対象の方が親子で随時利用できるようにしたい。子育て体制の充実のために安定した人、物、施設を整えたい。

**第6回チャリティ
おんがくの集いに参加**

3月10日に町民会館で開催された「おんがくの集い」に参加しました。

議会からは復興を願い「希望のうた」を会場の観客と共に合唱し、大変盛り上がりました。一日も早い復興を願います。

この日の収益は「日本災害復興支援特別基金」へ寄付されました。



**議会事務局長が
交代しました**

4年間お世話をいただいた三浦剛事務局長が、教育委員会・次長に異動となりました。

三浦局長は身体はとてもしっかりしていますが、とても細やかな気配りで、議会運営を取り進めてくれました。

一層のご活躍をご期待いたします。

代わって浅野信行次長が

教育委員会より異動となり、議会事務局長として着任しました。



あとがき

今年、明治維新、エゾ地を北海道と改めてから150年になります。

日本近代化のための資源、開発を北海道の開拓で進められて来ました。

道路・港湾・鉄道の整備、鉱山開発、農学校の設置などを進め、たくさんの移民者と屯田兵による開拓により北海道農業の骨格が出来ました。

沼田町もそうした先人の苦勞により、炭鉱が開発され、農地の開墾が進められ、農業においては有数の稲作地帯になりました。

また、まちづくりにおいては住みたいまちランキングでも上位に位置するほどになりました。

今後、将来、このまちで暮らして良かった、住んでいて良かったと思える、まちづくりを行っていききたいと思います。

広報特別委員

- 大沼 恒雄 高田 勲
- 小峯 聡 長原 誠
- 鵜野 範之

みんなの広場



「沼田学園沼田小学校」として

沼田学園沼田小学校 校長 **ひき た 博 和**

沼田町の皆さんには、日々本当にお世話になっております。四季折々の豊かな自然とあたたかい方々に囲まれて充実した沼田生活を送っております。

岩見沢市に自宅があるのですが、今年の積雪量にはやはり驚きました。その分、春のあたたかい日差しに心地よさを感じております。

本校は、今年度から小中併設型一貫連携校「沼田学園沼田小学校」として教育活動を進めてまいります。

校訓 「自立」「共生」「蛍雪」を掲げ、沼田ならではの教育環境を最大限に生かしながら、「主体性」と「創造性」をもって沼田学園沼田小学校の教育を進めていきたいと思っております。そのために、沼田学園の職員全員が力を合わせて精一杯努力していく所存です。

また、今年度も沼田学園運動会やALTの活用、6年生の中学登校、双方向での定期的な乗り入れ授業の実施等々、小中の連携を強化した沼田学園ならではの実践を積み重ねる予定です。

これらの取り組みは、子どもたちが、沼田に生まれて良かった、沼田学園で学んで良かったと大人になっても胸を張って誇れる学園づくりを目指して実施するものです。「沼田学園の教育活動」発展・充実にご期待をください。

